

生食でもおいしいハスカップの 品種開発と、加工・販売



きっかけ

- ◆ 山口善紀さんは、2005年に山口農園の5代目としてUターン就農をしました。就農前に日本一の製紙会社で働いていたことから、農業でも「日本一」を目指したいと考え、『**日本一のハスカップ農家、そして厚真町を日本一のハスカップ産地にすること**』を目標に歩み始めました。
- ◆ 登録品種「あつまみらい」「ゆうしげ」を町内農家限定で広げる取組などを通じて地域全体で産地づくりを進めた結果、2013年には栽培面積で、2018年には生産量で厚真町が日本一となり、山口さんの夢の一つが形となりました。



生食でも甘みのあるハスカップ



収穫時期は6月下旬～7月中旬

取組内容

- ◆ 山口農園の特徴は、生食でもおいしいハスカップの「**あつまみらい**」と「**ゆうしげ**」という**2品種の育成**にあります。ハスカップは「酸っぱい」「苦い」というイメージが強く、その多くは加工向けとされてきましたが、「あつまみらい」は甘みと酸味のバランスがよく大粒で食べ応えがある品種、「ゆうしげ」は酸味が少なく甘みを感じやすい品種です。
- ◆ 通年でスタッフを雇用し、収穫期以外は近隣農家の作業にも関わることで、地域内で雇用をつなぐ仕組みづくりにも取り組んでいます。ハスカップを通じて、産地づくりだけでなく、地域の担い手確保や若手農家支援にもつながる取組を進めています。

今後の展望

- ◆ 現在は、約4.3haの畑に約5,000本を植栽し、品種ごとの収穫適期を管理しながら、品質の均一化と収穫効率の向上を図っています。
- ◆ 山口さんは、厚真町で育まれてきたハスカップを、北海道を代表する作物の一つとしてさらに広げていきたいと考え、これまで町内農家のみとしていた「あつまみらい」「ゆうしげ」の苗木販売を、**2026年からは厚真町外にも広げる方向**で取組を進め、既に全道各地から要望が届いています。

株式会社 あつまみらい (ハスカップファーム) 山口農園

◆所在地

北海道勇払郡厚真町

◆お話を伺った方

代表取締役
山口善紀

◆取組内容

- ・ハスカップの栽培、加工、販売、収穫体験を実施
- ・「あつまみらい」「ゆうしげ」の2品種を登録
- ・登録品種を町内農家へ広げ、厚真町の産地化に貢献
- ・2013年 地域特産物マイスター(ハスカップ)に認定
- ・2017年 コープさっぽろ農業賞を受賞
- ・2025年 安孫子賞を受賞



自分の農園だけではなく
地域全体で日本一の産地を作る

代表取締役の山口さん



ハスカップの苗木販売も



商品紹介

- ◆ セールスポイントは、「生食でもおいしいハスカップ」です。山口農園では、品種ごとに収穫適期を管理し、食味の異なる果実が混ざらないよう工夫することで、生食向けハスカップの品質向上に取り組んでいます。
- ◆ 2014年には移動販売車を導入し、クレープやスムージーといったスイーツを通じて厚真産ハスカップの魅力を発信しています。
- ◆ 通販では、瓶商品以外にパウチ商品を導入し、クリックポスト(薄型梱包)にも対応。商品形態の工夫により、送料を軽減し、全国発送への敷居を下げた新たな販路拡大へとつなげています。

6次産業化の歩み



- ◆ 山口農園では、2013年に6次産業化事業者認定を受け、プランナーの派遣なども活用し、新たな商品開発に取り組みました。
- ◆ 認定を受けた事で大きな助けとなったのは、公的機関から様々なイベントに声が掛かるようになった点です。胆振総合振興局内では、当時認定を受けた事業者は少なく、取組が認められる一助となりました。

2026年7月1日取材



イベント時に出演となる移動販売車では、クレープやスムージーが人気

商品名

「あつまハスカップジャム」
「あつまハスカップソース」
「ハスカップの佃煮」
「ハスカップクレープ」
「ハスカップアイス」 他多数



主原料産地

北海道勇払郡厚真町

原材料

ハスカップ
(あつまみらい、ゆうしげ、他多数の品種)

提供可能時期

通年
生果・ハスカップ狩りは6月下旬～7月中旬

販売先

厚真町内、ネット販売
全国の物産展など
販売先の情報は公式HPから ⇒

